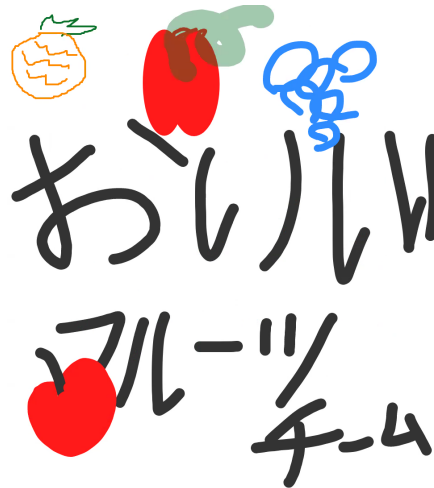


<第7回すららアクティブラーニングイベント 最終提出レポート>

テーマ:教育の不平等を解決するために

チーム名:おいしいフルーツチーム



チームメンバー:

- 飯野 栄里也 (アイデアページ、感想担当)
- 加藤晴也都 (調べた内容ページ、感想担当)
- 阪根 勇斗 (はじめにページ、感想担当)
- 浅岡マリジョセフィン (調べた内容ページ、感想担当)

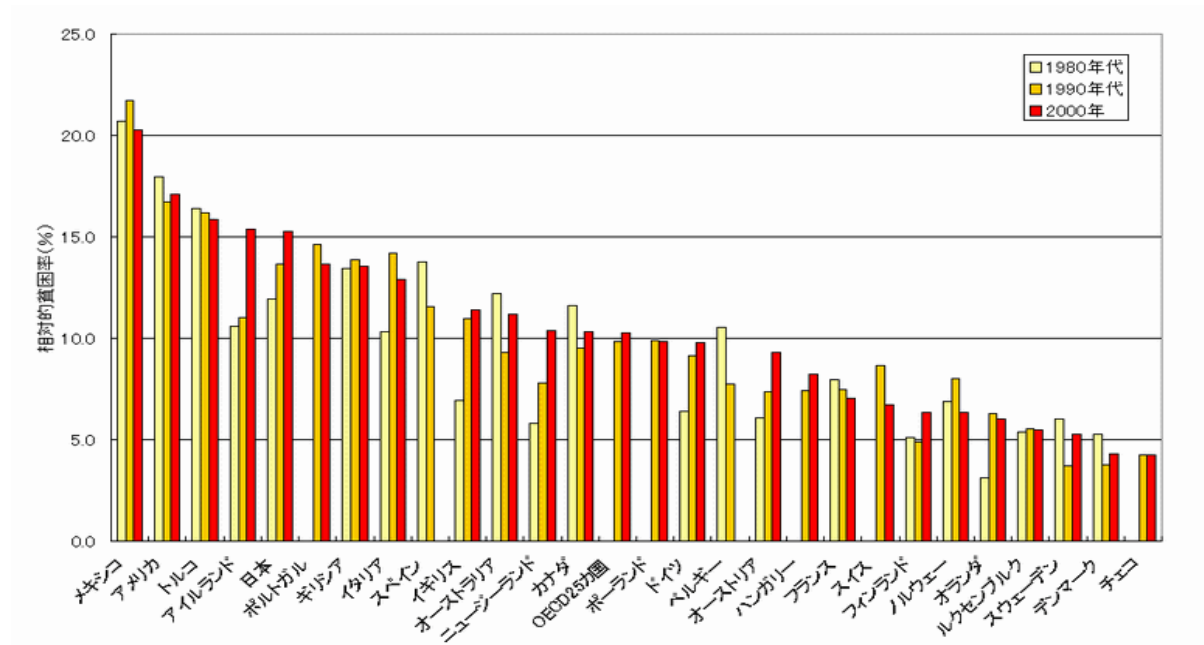


1. はじめに

{おいしいフルーツチーム}から発表します。

まず、テーマを言います。

僕たちは(私たちは)世界の教育の格差に注目しました。URLに飛んでグラフを見てくださ



このグラフを見ればわかるように日本以外の国も貧困に困っています。

ここには30カ国しかないが本当は196カ国あります。

したがって、もっと貧困に困っている国々もあるということがわかります。

みんなの話し合いの中で

「企業などに協力してもらって募金などで集めたお金と、リサイクル品などを使って学校を多く作る。サーバーなどもリサイクル品を活用して、オンラインを強化し、オンラインでも学習できるようにする」

という意見が出ました。

引用 : <https://livedoor.blogimg.jp/hikochan4556/imgs/7/c/7cfaf150.gif>

2. 調べた内容

世界の教育格差についての問題

1,男女の教育格差

女の子は家事を手伝わなければならないと考える親も多いので、女の子は学校に通うことができない。兄弟の面倒を見るのも女の子の仕事のひとつである。

2,先住民非先住民との教育格差

先住民は貧しい地域に住んでいる。例えばオーストラリアでは先住民は都市から離れた貧しい地域に住んでいる。1998年には12学年まで進級する子どもは非先住民に対して半分しかいない(下村)。

3,先進国と開発途上国の教育格差

小学校に通わない子どもは6,700万人いて、そのほとんどが開発途上国の子どもである。就学率の低い地域の子どもたちは入学しても卒業するまで通い続けられないことが多い(JICA)。

4.都市と地方の教育格差

学校に行けない理由のひとつが近くに学校がないというものである。また田舎では先生がいないという問題もある。貧しい地域や田舎に特有の問題である。

参考資料

「JICA(第2章世界が抱える様々な課題)」

https://www.jica.go.jp/mobile/hiroba/program/practice/education/materials/jhqv8b000005wd9w-att/2_1.pdf

「下村隆之 オーストラリアの遠隔地域における先住民教育の課題」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpasurban1983/2005/23/2005_23_91/_pdf/-char/ja

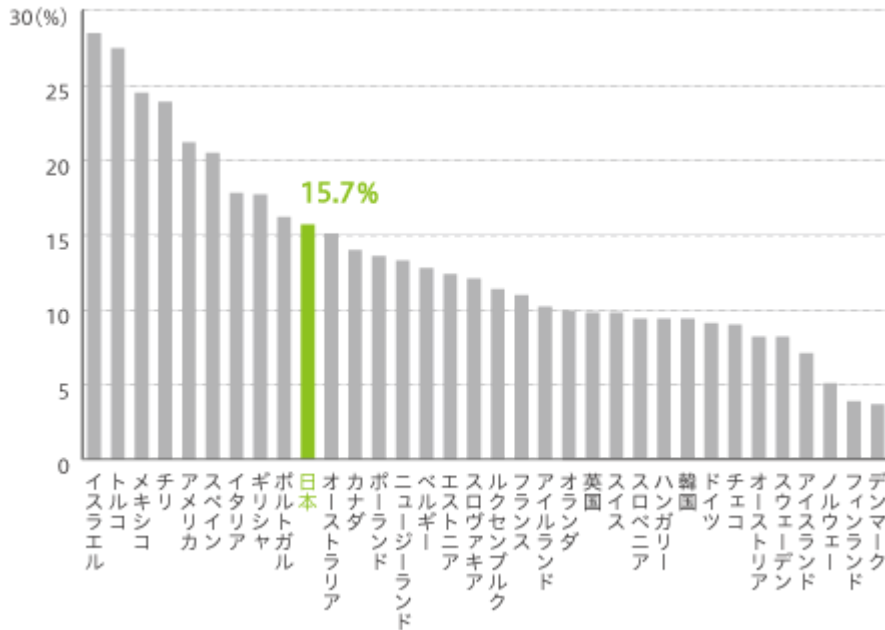
「World Vision(子どもの貧困と教育格差について考えよう)」

https://www.worldvision.jp/children/poverty_04.html

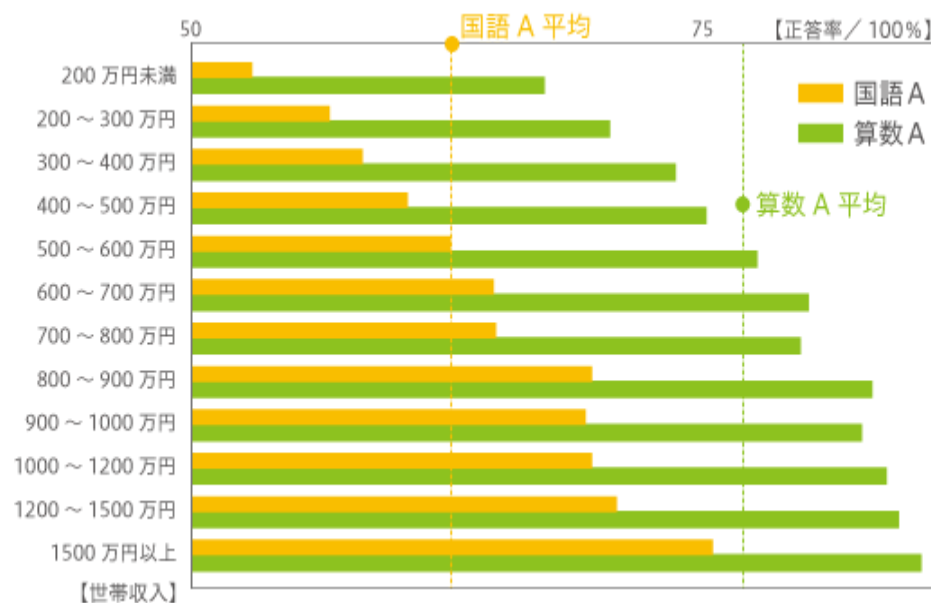
日本の教育格差についての問題

この下にあるグラフを見てほしい

このグラフは経済協力開発機構に加盟している34ヶ国の貧困率をまとめたグラフである



このグラフを見ると先進国である日本やアメリカ、なども上位に先進国の貧困が高い状況に今なっている。その中でも日本は15.7%と、7人に一人は貧困に困っている事が分かる。日本の大きな課題はこの貧困率をどうするかが大事である。



このグラフは世帯収入によって学力がどれだけ変わるかが分かるグラフである。前のことを思い出してほしい。貧困に困っている人は、7人に1人いる。この貧困率を解決しなければこの世帯収入によって学力が、変わるという問題は解決されない。

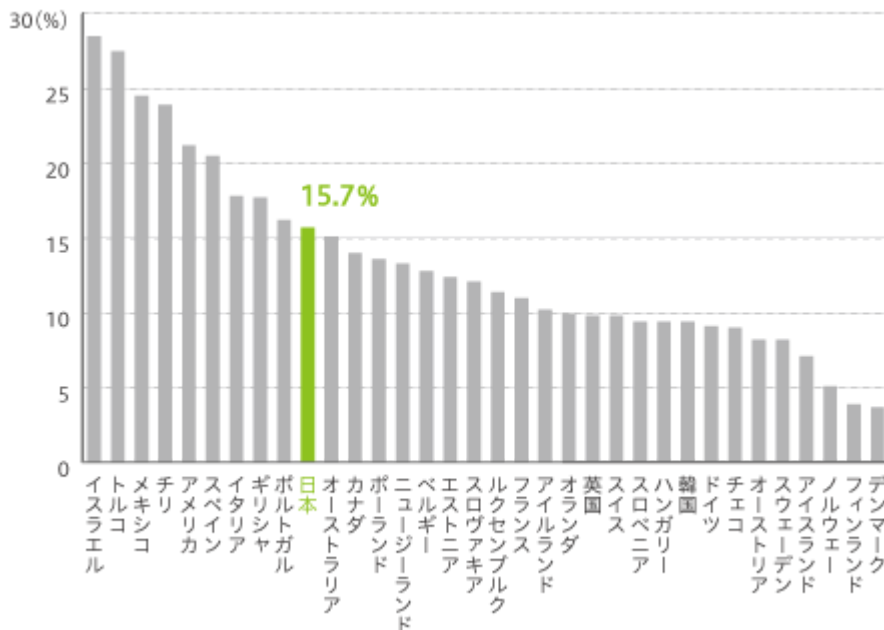
7人に一人という貧困率を直さなければ世帯収入によって変わる学習や、偏差値が人の努力では、あまり変わらず収入の差によって学力が変わってくるのは理不尽だというのが、今の日本の問題である。

出典

子どもの貧困と教育格差 | CFE <https://cfc.or.jp/problem/>

イタリアの教育格差についての問題

このグラフを見てほしい



このグラフは、日本の問題で使いましたね。日本の左の方にイタリアがありますこのことから7人に一人は以上は貧困に困っている事が分かる

衝撃的なことですがイタリアには、塾などが一切ないんです！

理由として学校の宿題の量が多い。イタリアの学校は、宿題の多さがイタリアの学校教育の特徴です。

宿題のチェックが日本と違い日本は宿題を提出することで確認するが、イタリアは、口頭試問だから、答えを見て宿題をしてもしっかり覚えていないとだめなんです。

イタリアは日本と違い入試試験を受けずに希望校に行けるんです

しかし高校から落第があります。一科が25%以上欠席の場合と、10段階評価で一科目でも4以下と、10段階評価のうち4科目以上が5以下の場合が、自動的に退学となる

もしくは3科目で5の成績を取ったら、7月の補修学習を受けたうえで、9月の追試を受けないといけない。

出典

イタリアの教育制度～塾はいらない～日本と違う海外の学校

<https://moomii.jp/kosodate/education-in-italy.html>

3. アイデア

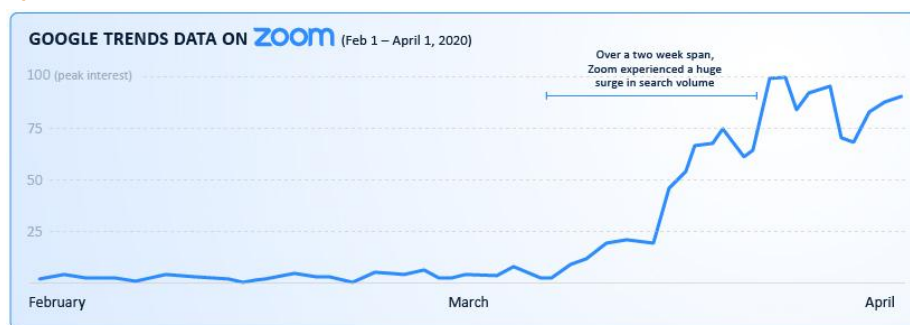
まず、一番いい方法はできるだけたくさんの学校を作り、pcなどを追加したほうがいいと思います。なぜならなんらかの理由で学校に行けなくても、授業のレコードを見て勉強できるし、もし学校がちかかなくなってもオンラインでかいけつできるからです。しかし、この方法を使うとサーバーにもものすごい負担がかかります。なのでサーバーを多くするか、そのサーバーを強くする方法があります。今 zoom (ズーム)のサーバはカルフォルニアのSan Jose(サン・ジョーズ)と言う町にあります。

👉 San Jose の旗



そのサーバーがzoomの会議を繋げてます。もし同じようなサーバーがたくさんあったらオンライン授業などが楽になると思います。

👉 zoomにアクセスする人の数 (1日)



2月

3月

4月

学校のテーブルや椅子のどの道具は、リサイクルされた材料で作った方がいいとおもいます。なぜならもしたくさんの学校を作るとしたらかなりの材料が必要になるからです。

4. 感想

・加藤晴也都さん

レポートを作ってみて、作るどころや、しっかり前のアクティブラーニングのやつにしっかり読むことが、難しかったです

話し合いがとても楽しくて、最初は恥ずかしかったけど、話し合いを通して中を深めながら話し合いが出来たのがとても楽しかった

・飯野 栄里也さん

あまり気にしていなかったテーマだったのでおもしろかったです。

・阪根勇斗さん

教育の差は世界中で深刻であることが分かった

メンバーで全員年上だったけれど親しんで活動できた

・浅岡マリジョセフィンさん

みんなとたくさんお話ができて楽しかった。